

文教大学情報学部

情報社会学科とは

佐久間勲

isao@bunkyo.ac.jp

このスライドでは、情報社会学科とはどのような学科であるのか、そのコンセプトを説明いたします。

情報社会 Information Society

以下の①から④のうちの1つないしは2つ以上の組み合わせが支配的な社会

- ①情報を収集・加工・伝達・消費する社会的仕組みが巨大になった状態
- ②社会システムを制御する情報装置が巨大かつ複雑になった状態
- ③ものの生産より情報の生産部門（第四次産業部門）がより大きくなり、この部門に従事する人々がより多くなった状態
- ④人びとの日常生活のなかで情報消費（享受）がより大きくなった状態

（「社会学事典」有斐閣）

最初に情報社会の言葉の意味を説明します。『社会学事典』で情報社会ということばを調べて見ると、スライドの通り書いてあります。①から④のうち、①つないしは②つ以上の組み合わせが支配的な社会のことを「情報社会」と言います。

「①情報を収集・加工・伝達・消費する社会的仕組みが巨大になった状態」「②社会システムを制御する情報装置が巨大かつ複雑になった状態」とありますが、これは現代の「インターネット」というしくみに該当するでしょう。私たちはインターネットによりさまざまな情報を得ることができます。同時に他者や社会に向けて情報を発信することもできます。インターネットは巨大かつ複雑なものになっているだけではなく、インターネットが使えない状態になることにより、私たちの日常生活に支障を来すでしょう。「③ものの生産より情報の生産がより大きくなり、この部門に従事する人々が多くなった状態」とありますが、インターネットの発展に伴い、いわゆる情報サービス産業と言われる分野で働く人は年々増加しています。「④人々の日常生活の中で情報消費（享受）がより大きくなった状態」ですが、私たちはインターネットをはじめとしたさまざまなメディアから情報を得て生活に役立てたり、楽しんだりしています。

情報社会学科での学び

- 「**情報社会**」を学ぶ学科

本学の情報社会学科ですが、まさにこうした「**情報社会**」を学ぶ学科になります。つまり学科名は、研究・学習の対象を示すものになっています。社会学の一分野に「情報社会学」と言われる分野もありますが、「情報社会学」で扱う内容も学習しますが、それだけではなく「情報社会」そのものを学ぶ学科になります。

「情報社会」を学ぶこと

- ① 情報社会のなかにある問題を発見し、それらに対する（主に情報技術を用いた）解決法を提唱するための知識とスキルを身につける
- ② 情報社会のしくみ・特徴・意義、および情報社会に必要な情報技術について理論的、総合的、実践的に学び、情報活用と情報伝達の理論や方法とスキルを身につける

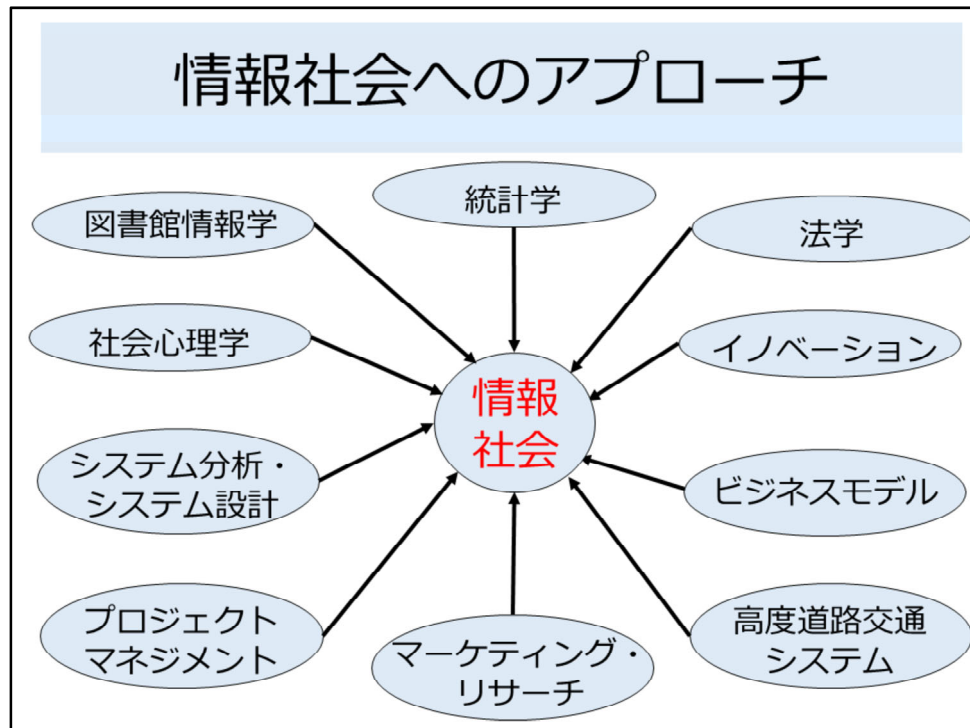
「情報社会」を学ぶためには、諸分野の専門知識を横断的に総合する能力が必要

情報社会を学ぶということはどういうことか、もう少し詳しく説明します。

第一に、情報社会のなかにある問題を発見し、それらに対して、主に情報技術を用いた解決法を提唱するための知識とスキルを身につけることです。ここでいう問題とは日常生活やビジネスの中でちょっと困ったことくらいに考えてください。そうしたちょっと困ったことを見つけ出し、それを解決するためにはどうすればよいのか、その解決法を提唱するために必要な知識とスキルを身につけます。例えば、近くに書店がないので本が買えないという困ったことがあるとします。それに対してインターネットで書を販売する方法を提案することを通して、その困ったことを解決することは、その一例になります。

第二に、情報社会のしくみ・特徴・意義、および情報社会に必要な情報技術について理論的、総合的、実践的に学び、情報活用と情報伝達の理論や方法とスキルを身につけることです。情報社会がどのようなしくみをしているのか、その特徴や意義としてどのようなものがあるのか、さらに情報社会で必要とされる情報技術についてさまざまな学問を通じて学びます。そして日常生活やビジネスの中で情報を活用したり、情報を効果的に伝達したりするために必要な知識とスキルを身につけます。

以上の通り「情報社会」を学ぶためには、ある一つの学問分野だけを学ぶだけでは不十分です。複数の分野を横断する、かつ統合する能力が必要となります。



したがって情報社会学科では、中心に研究・学習の対象となる「情報社会」があり、その「情報社会」について、さまざまな分野から学んでいくことになります。

学問分野には、「法学」「図書館情報学」「社会心理学」などの文系的なものから、「高度情報システム」「システム分析・システム設計」などの理系的なものまで幅広い分野が含まれます。

情報社会に関わる研究課題の例

- デジタルコンテンツの普及と著作権の問題（法学）
- IoTを活用した新しい商品・サービス（ビジネスモデル、イノベーション）
- ID-POSデータによる消費者行動の分析方法（統計学、マーケティング・リサーチ）
- 情報システムを活用した安全な自動車の走行（高度道路交通システム）
- 新しい情報システムの提案と開発マネジメント（システム分析・システム設計、プロジェクトマネジメント）
- SNS普及による人間関係の変化（社会心理学）
- 図書館資料のデジタル化（図書館情報学） など

具体的にどういう研究課題があるか、いくつか例示したのがスライドに書いてあるものになります。

すべての研究課題について、ある特定の学問だけから理解ができるわけではありません。さまざまな研究課題がありますが、それらを理解するためには、**複数の学問に関する知識を利活用しなければなりません。**

身につける能力と将来像	
具体的な能力	将来像
・ 情報社会のしくみやビジネスの理解を踏まえて、課題の発見と新しい提案・解決ができる ・ 人間に役立つ情報活用のしくみを提案できる ・ 情報社会のしくみや問題点・危険についての確かつ総合的な見方と判断ができる ・ 効果的な情報技術の活用や、情報社会の適切な分析ができる ・ コミュニケーションの能力に優れ、適切な方法や手段により説得力ある情報発信ができる	・ 情報社会の発展に貢献できる高度職業人 ・ 情報社会のリーダー ・ 情報活用と情報伝達の専門家

最後に、情報社会学科で身につける能力と、将来像について説明します。

身につける能力としては次の5つを想定しています。第一に、「**情報社会のしくみやビジネスの理解を踏まえて、課題の発見と新しい提案・解決ができる**」能力です。第二に、「**人間に役立つ情報活用のしくみを提案できる**」能力です。第三に、「**情報社会のしくみや問題点・危険についての確かつ総合的な見方と判断ができる**」能力です。第四に、「**効果的な情報技術の活用や、情報社会の適切な分析ができる**」能力です。そして最後に、「**コミュニケーションの能力に優れ、適切な方法や手段により説得力ある情報発信ができる**」能力です。

こうした能力を身につけた上で、卒業後は「**情報社会の発展に貢献できる高度職業人**」「**情報社会のリーダー**」「**情報活用と情報伝達の専門家**」を目指すことを想定しています。具体的な職業イメージとしては、「経営企画・事業開発のスペシャリスト」「提案型営業・企画部門のスペシャリスト」「企業の調査部門のスペシャリスト」「プロジェクト・マネージャ」「ITコンサルタント」「（主に上流過程）のシステム・エンジニア」「システム・アナリスト」などになります。